

コーディネーター。第49回日本東洋医学会学術総会サテライトシンポジウム, 第5回東洋医学シンポジウム, 1998, 5, 熊本。

- 18) 嶋田 豊: 脳血管性痴呆と釣藤散。漢方医学 22: 148-150, 1998.
- 19) 喜多敏明: シンポジウム「現代社会のストレスと漢方の役割」から 現代社会と漢方。薬局新聞, 1998, 6, 10.
- 20) 喜多敏明: 桂枝剤・麻黄剤。上越地区漢方セミナー, 1998, 6, 上越.
- 21) 喜多敏明: 柴胡剤。上越地区漢方セミナー, 1998, 7, 上越.
- 22) 喜多敏明: 参耆剤。上越地区漢方セミナー, 1998, 9, 上越.
- 23) 喜多敏明: 附子剤・大黄剤。上越地区漢方セミナー, 1998, 10, 上越.
- 24) 後藤博三: 大黄剤について。続・実践漢方診療講座, 1998, 7, 15, 富山.
- 25) 後藤博三: 大黄剤について。新・和漢診療学講座呉西地区漢方懇話会, 1998, 8, 18, 高岡市.
- 26) 伊藤隆: 講義・わかり易い傷寒論。和漢薬研究所夏期セミナー, 1998, 8, 富山.
- 27) 寺澤捷年: 東西医学融合の試み。和漢薬研究所夏期セミナー, 1998, 8, 富山.
- 28) 寺澤捷年: 漢方一命の輝きを求めてー。諏訪中央病院改築記念講演, 1998, 8, 諏訪.
- 29) 寺澤捷年: 座談会 メンタルヘルスにおける漢方治療の意義と展望。JAMA 9: 4-11, 1998.
- 30) 嶋田 豊: 座談会 脳血管性痴呆と釣藤散。Nikkei Medical 10 別冊: 16-23, 1998.
- 31) 寺澤捷年: 脳血管性痴呆に対する釣藤散の効果。平成10年度国際学術交流 中国交流協定機関若手研究者シンポジウム, 基調講演, 1998, 10, 富山.
- 32) 寺澤捷年: 漢方薬研究の最近の話題。厚生 11: 16-17, 1998.
- 33) 寺澤捷年: 第三の医学・医療。毎日ライフ 12: 3, 1998.
- 34) 柴原直利: アトピー性皮膚炎の治療について。中部保健所研修会, 1998, 12, 上市町.
- 35) 喜多敏明: やさしい漢方理論①気血水理論, 瘀血の病態。The Kampo 創刊号: 16-19, 1998.

人間科学・基礎看護学

基礎看護学研究室

教	授	高	間	静	子
講	師	塚	原	節	子
助	手	上	野	栄	一
助	手	高	島	佐	知子

◆ 原 著

- 1) 高間静子, 塚原節子, 上野栄一: 看護婦の社会的スキルのリーダーシップ行動への影響, 富山医科薬科大学看護学科誌1(1), 29-33, 1998.
- 2) 塚原節子, 上野栄一, 高島佐知子, 高間静子: 看護婦の専門的自律度のリーダーシップへの影響, 富山医科薬科大学看護学会誌.1(1), 23-27, 1998.
- 3) 上野栄一, 高間静子: 病室環境におけるディストレス度測定尺度作成の開発, 富山医科薬科大学医学会誌11(1), 65-68, 1998.
- 4) Imamura T., Haruta T., Takata Y., Usui I., Iwata M., Ishihara H., Ishiki M., Ueno E., Sasaoka T., and Kobayashi M.: Involvement of Heat Shock Protein 90 in the Degradation of Mutant Insulin Receptors by the Proteasome, The Journal of Biological Chemistry, 273 (18), 11183-11198, 1998.
- 5) Ishihara H., Sasaoka T., Wada T., Ishiki M., Haruta T., Usui I., Iwata M., Takano A., Uno T., Ueno E., and Kobayashi M.: Relative involvement of Shc tyrosine 239/240 and tyrosine 317 on insulin induced mitogenic signaling in rat 1 fibroblasts expressing insulin receptors, Biochemical and Biological Research Communications 252, 139-144, 1998.

◆ 学会報告

- 1) 花岡由紀, 谷 優子, 塚原節子, 高間静子: 病室環境における入院患者のディストレスと快眠度との関係, 第24回日本看護研究学会, 1998, 7, 弘前.
- 2) 上野栄一, 高島佐知子, 小川幸恵, 高間静子: 病室環境における入院患者のディストレス度測定尺度作成の試み, 第24回日本看護研究学会, 1998, 7, 弘前.
- 3) 横田恵子, 大江美由紀, 谷優美子, 上野栄一, 高間静子: 病室環境における入院患者のディストレスと不安との関係, 第24回日本看護研究学会, 1998, 7, 弘前.
- 4) 堂下芳美, 八田朱美, 江守外志子, 上野栄一,

- 高間静子：看護婦の社会的スキルと専門的自律度との関係，第24回日本看護研究学会，1998，7，弘前。
- 5) 塚原節子：慢性疾患患者の受療行動とソーシャルサポートとの関係，第18回日本看護科学学会，12，1998，札幌。
 - 6) 春田哲郎，岩田 実，薄井 勲，宇野立人，高野敦子，上野栄一，石木 学，和田 努，石原元，石橋 修，笹岡利安，小林正：GTP γ SによるPI3-kinase非依存性GLUT4 translocationにおけるチロシンリ集会，1998，5，和歌山。
 - 7) 岩田 実，春田哲郎，薄井 勲，宇野立人，高野敦子，上野栄一，石木 学，和田 努，石原元，石橋 修，笹岡利安，小林 正：TNF- α によるインスリン抵抗性に対するPioglitazoneの効果について，第41回日本糖尿病学会年次学術集会，1998，5，和歌山。
 - 8) 薄井 勲，春田哲郎，高田康光，岩田 実，宇野立人，高野敦子，上野栄一，笹岡利安，石原元，石木 学，和田 努，石橋 修，小林 正：脂肪細胞への分化におけるインスリンシグナルの働き，第41回日本糖尿病学会年次学術集会，1998，5，和歌山。
 - 9) 宇野立人，春田哲郎，薄井 勲，岩田 実，高野敦子，上野栄一，笹岡利安，石原 元，石木学，和田 努，石橋 修，小林 正：インスリン刺激によるIRS-1のセリン／スレオニンリン酸化の検討，第41回日本糖尿病学会年次学術集会，1998，5，和歌山。
 - 10) 高野敦子，春田哲郎，薄井 勲，岩田 実，宇野立人，上野栄一，笹岡利安，石原 元，石木学，和田 努，石橋 修，小林 正：成長ホルモンのインスリン様作用およびインスリン抵抗性の機序の検討，第41回日本糖尿病学会年次学術集会，1998，5，和歌山。
 - 11) 上野栄一，春田哲郎，薄井 勲，岩田 実，宇野立人，高野敦子，石橋 修，石原 元，石木学，和田 努，笹岡利安，小林 正：Pervanadateによる3T3-L1細胞のglucose uptakeに関する検討，第41回日本糖尿病学会年次学術集会，1998，5，和歌山。
 - 12) 石木 学，笹岡利安，石原 元，和田 努，平井洋生，薄井 勲，岩田 実，高野敦子，宇野立人，上野栄一，高田康光，春田哲郎，小林 正：L6細胞でのグリコーゲン合成に至るシグナル伝達におけるShcの役割，第41回日本糖尿病学会年次学術集会，1998，5，和歌山。
 - 13) 和田 努，笹岡利安，石原 元，石木 学，薄井 勲，岩田 実，宇野立人，高野敦子，上野栄一，高田康光，春田哲郎，小林 正：インスリンとIGF-1作用におけるSH2 Domain Containing Inositol 5-Phosphatase(SHIP)の役割，第41回日本糖尿病学会年次学術集会，1998，5，和歌山。
 - 14) 石原 元，笹岡利安，平井洋生，石木 学，和田 努，薄井 勲，岩田 実，高野敦子，宇野立人，上野栄一，高田康光，春田哲郎，小林 正：Shcに結合するSH2 domain inositol 5-phosphatase subfamily (SHIP-2) のクローニング，第41回日本糖尿病学会年次学術集会，1998，5，和歌山。
 - 15) Ueno E., Iwata M., Usui I., Takano A., and Haruta T.: Role of Tyrosine Phosphorylation Induced by GTP γ S and Osmotic shock in 3T3L1 Adipocytes, (American Diabetes Association), 1998, 6, Chicago, USA.
 - 16) Takano A., Iwata M., Uno T., Ueno E., and Kobayashi M.: Mechanism of Insulin-like Effect and Insulin Antagonistic Effect of Growth Hormone, 58th Scientific Sessions (American Diabetes Association), 1998, 6, Chicago, USA.
 - 17) Iwata M., Usui I., Uno T., Ueno E., and Haruta T.: Pioglitazone Improves Insulin Resistance by Inhibiting TNF α -induced Decrease of IRS-1 Protein in 3T3L1 Adipocytes, 58th Scientific Sessions (American Diabetes Association), 1998, 6, Chicago, USA.
 - 18) 石原 元，笹岡利安，和田 努，堀 宏之，平井洋生，春田哲郎，薄井 勲，岩田 実，宇野立人，高野敦子，上野栄一，小林 正：インスリンシグナル伝達におけるSHIP-2の役割，第10回分子糖尿病学シンポジウム，1998，12，松山。
- ◆ 総 説
- 1) 上野栄一：Case Study With Stat View-医療の分野におけるStat Viewの活用事例，医療とコンピュータ，9(2)，111-123，1998。
- ◆ その他
- 1) 木谷真由美，鍋山昭子，日下智子，猪谷久美，砂田厚子，野上悦子，上野栄一：高齢糖尿病患者とその家族の治療や療養法に対する満足度とギャップ，第14回富山県糖尿病懇話会，1998，11，富山。
 - 2) 福田正治，高間静子：携帯型レスポンスアナラ

イザの試作とその医学基礎教育への活用の試み,
医学教育, 29(4), 235-239, 1998.

人間科学・基礎看護学

人間科学(1)研究室

教 授 落 合 宏

◆ 著 書

- 1) 岸本千晴, 神谷 元, 今中-吉田恭子, 落合 宏, 安富康宏, 栗林景容: コクサッキーB3 ウィルス性心筋炎における心筋炎惹起エピトープの検索. 「心筋の構造と代謝」永野 允編, 253-257, 六法出版社, 東京, 1998.

◆ 原 著

- 1) Andoh T., Kawamata H., Umatake M., Terasawa K., Takegami T. and Ochiai H.: Effect of bafilomycin A1 on the growth of Japanese encephalitis virus in Vero cells. J. Neuro Virol. 4:627-631, 1998.
- 2) 塚田トキエ, 馬竹美穂, 落合 宏: 富山医科薬科大学医学部看護学科早期体験実習に対する学生の反応. 富山医科薬科大学看護学会誌, 1: 79-87, 1998.

◆ 学会報告

- 1) 今村博明, 水口志賀子, 青木雅子, 石金恵子, 廣上真理子, 村藤頼子, 北川洋子, 境 美代子, 吉田郁子, 三村泰彦, 田内克典, 落合 宏, 水島 豊: 当院NICUにおけるMRSA対策について. 第13回日本環境感染学会総会, 1998, 2, 東京.
- 2) 岸本千晴, 川俣博嗣, 落合 宏: 実験的ウィルス性心筋炎におけるMacrophage Inflammatory Protein-2 の動態. 第62回日本循環器学会総会, 1998, 3, 東京.
- 3) 岸本千晴, 安富康宏, 落合 宏, 今中-吉田恭子, 栗林景容: コクサッキーB3 ウィルス性心筋炎における心筋炎惹起エピトープの検索と自己免疫性心筋炎の開発. 第62回日本循環器学会総会, 1998, 3, 東京.
- 4) 川俣博嗣, 萬谷直樹, 寺澤捷年, 馬竹美穂, 今西信子, 三善郁代, 高松奈美, 落合 宏: マウスインフルエンザウイルス肺炎に対する抗MIP-2抗体投与の影響. 第4回富山バイオセラピー研究会, 1998, 7, 富山.
- 5) 岸本千晴, 高松奈美, 落合 宏: ウィルス性心筋炎に対する免疫グロブリン療法. 第46回日本ウィルス学会総会, 1998, 10, 東京.
- 6) 萬谷直樹, 川俣博嗣, 馬竹美穂, 今西信子, 三善郁代, 高松奈美, 落合 宏: 和漢薬による液胞の酸性化阻害作用とインフルエンザウイルス増殖